

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470100435		
法人名	有限会社 すずらん		
事業所名	すずらん大山田		
所在地	三重県桑名市大山田2丁目7番地11		
自己評価作成日		評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JivogyoCd=2470100435-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JivogyoCd=2470100435-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 26 年 12 月 8 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は、緑豊かで静かな住宅地にあり、近くには池や公園があり、四季の移り変わりが楽しめます。利用者様は、散歩の折に近隣の方々と挨拶を交わしたり等、楽しく過ごされています。「やさしい手」をモットーに思いやりの心を常に持ち、利用者様本位の介護・支援に努めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

団地の中のおアシスのような公園と池の畔にある事業所は、その恩恵を受けて四季の移ろいを肌で感じる環境にある。お天気のいい日には池のほとりを散歩して近隣の住民と挨拶を交わし、ベンチで日向ぼっこを楽しんでいる。利用者は、併設のデイサービスの利用者とも馴染みになり、毎日楽しく話をしたり、リハビリ体操にも参加している。また、利用者の立場で考え支援している職員に、「どこにも行かずにここに居たい、料理も毎回楽しみ」と言い、感謝の声が聞かれる事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様の尊厳、地域への奉仕の精神を常に考え、玄関に掲示している「やさしい手」の心を忘れず日々、実施につなげている。	理念は開設以来変わっていないが、その中でも大切にしている「やさしい手」をモットーに日々支援をしている。具体的に何か理念に反する問題のあった時に職員同士で話し合い共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、町内の清掃活動や防災訓練に参加し、地域の方々と交流を図っている。	団地の自治会も高齢化し、地域の行事が少なくなってきた。これまでは年に1度の清掃活動に利用者も参加していたが、最近では高齢化で難しくなり、職員が参加している。利用者は散歩の時に出会った顔馴染みの住民と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じ、事業所内で行っている事を提供し、地域の人々に向けて協力できるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に運営推進会議を開き、現状報告の他、防災や地域の情報等、意見交流を行い、サービスの向上に活かしている。	2か月毎に市の職員、包括、民生委員、地域の代表者などの参加で開催している。ホームの現状報告に加え、その時々抱えている問題について参加者から貴重な意見をもらいサービス向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で助言を頂いたり、介護保健の更新手続き時に市役所を訪問したり等、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議や介護保険の更新手続きの際、また生活保護の利用者の手続き等で解らないことがあった時、その都度市役所に出向き相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内での勉強会で重要なテーマの1つとして、よく取り上げ学習しており、理解・実践に努めている。	拘束に関しては、年間を通した職員の研修計画の中に必ず取り上げてその弊害について確認している。日中玄関の施錠はしていないが、2階の階段入口に関しては、転落防止のため夜間には施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の意識を日々新たにするため会議を開き、職員間の意識を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修より、制度について学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際は十分な説明を心がけ、利用者様やご家族様に納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者様の意見に耳を傾け、ご家族とは面会時や行事参加の折に意見を頂き、運営に反映している。	面会時や行事の時に相談したり、意見をもらっている。内容によってはケア会議で取り上げ職員間で意見交換し共有している。面会が少ない家族には電話で近況報告をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回各棟の責任者による定例会議において意見、情報交換し普段の業務に活かしている。	毎日昼食後の空いた時間に報告会をし、問題が生じた時に職員間で意見交換して共有している。管理者は職員から出された問題を代表者会議で議題にあげて解決の糸口にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に職員が働きやすい職場環境、条件の整備に努めている。又、職員の資格取得に、向けた支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な法人研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の各事業所との連携に努め、勉強会を定期的に関開く等、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、利用者様との十分な話し合いをし、不安な事や要望を聞き、早く周囲に溶け込めるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学をしてもらったり、ご家族が抱えている不安や要望に耳を傾け、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族の要望を聞き、優先すべき課題やサービスの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は人生の先輩であるという考えを職員全員が持ち、尊敬の気持ちと思いやりの心で接するよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、面会時や電話連絡時に本人の様子を伝え、又家族からの要望を聞き、本人の情報を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に面会して頂けるような雰囲気作りや家族による外出、外泊等を勧めている。	利用者にとっては、家族の顔を見るのが一番うれしいことなので、なるべく頻繁に面会にきてもらえるよう電話をしたりして働きかけている。デイサービスの利用者が馴染みになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事時間等、介助が必要な利用者様を他の利用者が気づかったり、助け合ったりしながら生活できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	該当なし。 今後あった場合は、必要に応じて本人・家族の意向に添えるよう相談支援を考えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、コミュニケーションを大切にし、本人の思いや希望を伺い、意思の把握に努めている。	利用者との日頃の会話から思いや意向を汲み取っている。また、それが変わってきた時には一言でも申し送りノートに書き込み、共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際は、事前に本人や家族からこれまでの暮らし方やサービス利用状況等の聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録や申し送りにおいて、利用者の状態等、情報を共有するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃のケアの中で職員間で話し合いを行い、本人・家族の意向を踏まえながら、協議し、介護計画を立てている。	担当者会議で出された課題に沿ったプランを立て日々のケアに反映させている。3ヶ月毎にモニタリングしているが、それぞれの利用者の課題を意識して日々のケアに当たるよう時折課題を確認し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・個別支援経過記録に日々の様子や職員の対応を記入し、職員間で情報を共有しながら計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買物同行により、利用者の気分転換を図ったり、満足が得られるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる人形劇、大正琴、大型紙芝居等を行い、安全で豊かに暮らしているよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	4週間に1回往診に来て頂き、医師と利用者の信頼関係を築いている。	入居時にこれまでのかかりつけ医から全員協力医の受診になる。毎朝ナースがバイタルを取り、月1回の定期検診を受けていて、家族の安心につながっている。また、週1回マッサージ師の施術を受けることが、利用者の楽しみになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師との連携に努め、緊急時や夜間の対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は看護サマリーを利用し、情報を共有したり、お見舞いに行き、病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時点で、家族と終末期に対する考えを話し合っている。又、終末期は法人内の看護師がいる施設への移動を家族に説明している。	入居時には看取りは可能と説明しているが、状態が悪化してきた利用者は、病院に入院したり系列の施設に移っているのが現状である。	事業所として「最後までここに居たい」という利用者の思いを叶えたいという方向にあるので、ホームとしての看取り指針を作成し、しっかりとその方向性を示していくよう期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送、家族への連絡、かかりつけ医の連絡等の手順を職員全体で日頃から把握し、対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員が立ち会いのもと、入所者職員全員で訓練を行っている。又、近隣の協力が得られるようお願いしている。	今年度デイサービスと合同で、消防署立会のもの、夜間を想定したものと合計2回の避難訓練を実施した。また、近隣の住民の避難所にも指定されているため、備蓄も準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会で利用者への言葉かけや対応に関して、個人の尊厳やプライバシー保護を念頭に置き、その大切さを確認している。	事業所の職員研修を毎月テーマを変えて実施している。一人ひとりの尊厳、プライバシーを守ることは、事業所の理念にもなっており、絶えず確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定しやすいような雰囲気作り、言葉かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの個性を尊重し、体調に合わせて、ゆとりを持った過ごし方ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や職員による、ひげ剃り、整髪の他、定期的に訪問美容室の来所がある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるよう、好物を尋ねたり、メニューを一緒に考えたりしている。簡単なお手伝いはお願いしている。	系列の農園からいつも新鮮な食材が届き、専門の調理担当者が調理している。食事の時間が利用者の最も楽しみな時間になっている。クリスマス、母の日、敬老の日などは、特別な行事食を用意している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養や水分量が確保できるよう利用者各々の状態を把握するよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしている。 夜間、入れ歯預かりの方は、朝、本人に手渡している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	機能低下により、やむをえず、オムツ使用の方もいるが、出来るだけトイレ誘導、介助にて排泄の自立を目指している。	排尿チェック表で排尿パターンをつかみ、声掛けしてトイレ誘導している。全体的に介護度が高くなってきているが、夜間も一人を除きトイレでの排泄が出来ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便チェックを行い、場合によっては医師の指示のもと、緩下剤を服用している。水分摂取にも気配りしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望、体調に合わせて入浴している。	利用者の希望や体調に合わせて週3回程度入浴をしている。入浴の際に普段聞けない利用者の話を聞き、唯一ゆっくりと個人対応できる時間と捉え丁寧に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々のファイルに内服薬の処方内容がとじられ、職員は常時、確認できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の暮らしの中での観察や会話を通して、本人の意向を確認し、一人ひとりがいきいきと生活できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	付近の散歩の他、年1回の家族参加の花見等、戸外に出かけられるように支援している。	日常的には池の近辺を散歩しているが、全体的に介護度が高くなり、全員揃っての外出は、毎年4月に実施している家族一緒の花見だけになった。その時は参加者全員のお弁当を用意し、家族と共に楽しいひと時を過ごしてもらえるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の預り金は施設で管理させて頂いている。買物に同行した際は、支払い等、付き添ってお手伝いさせて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じて、職員が電話をかけて本人に代わったり、手紙のやり取りの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、清掃を行い、清潔保持をし室内の温度、湿度、換気に配慮している。又、玄関には季節に応じた貼り絵、リビングには習字等の作品を飾り、居心地の良い空間作りに努めている。	ほとんどの利用者が1階のリビングで一日を過ごしている。リビングは日の光が差し込む明るい部屋で、窓の外の生け垣の緑が美しく眼隠しにもなっている。利用者はゆったりとしたソファでデイサービスの顔馴染みの利用者との会話を楽しんでいる。2階への階段には車いすの利用者のための昇降機が設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室はすべて個室である。 リビングが交流の場となっており、自由に過ごすことができるような環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人手作りの作品を飾ったり、ご家族の写真、お花やカレンダー等、御家族からのプレゼントを飾ったりして各々の好みに合わせている。	居室は広くゆったりとしていて、備え付けのベッドと大型の押し入れがあり、どの部屋も掃除が行き届き整理整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリー構造で安全が確保されている。利用者が危険のない生活が送れるよう職員は配慮し、自立に向けた支援に努めている。		